

さやえんどうの需給動向

調査情報部



さやえんどう（徳島産）



スナップえんどう（愛知産）

主要産地



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

えんどうはマメ科の一年草で中央アジアから中東が原産である。古代エジプトのツタンカーメン王陵の遺跡からも種子が発見されており、最古の野菜ともいわれる。日本へは10世紀ころに穀物として伝来し、さやえんどうとしては江戸時代にヨーロッパから伝わった。比較的、低温を好み気温が

25度を越えると樹勢が低下するため、夏場の出荷は産地が限られる。若さを食用とする“さやえんどう”は完熟しない実をさやごと食べる絹さやと大莢、肥大した実をさやごと食べるものがスナップと大きく2種に分けられる。

作付面積・出荷量・単収の推移

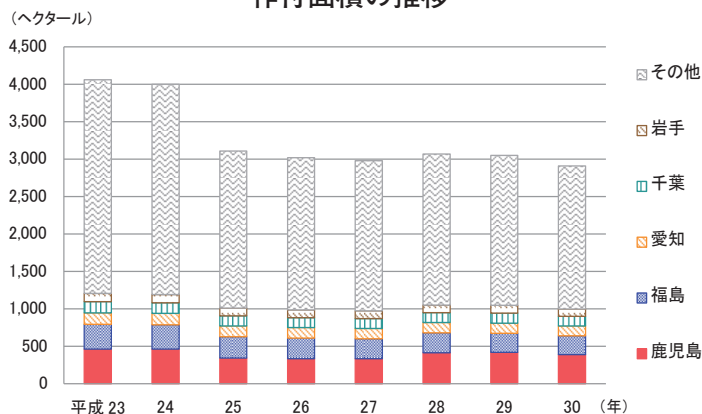
平成30年の作付面積は、2910ヘクタール（前年比95.4%）と、前年に比べてやや減少した。

上位5県では、

- ・鹿児島県 390ヘクタール（同 92.9%）
- ・福島県 249ヘクタール（同 98.0%）
- ・愛知県 134ヘクタール（同 98.5%）
- ・千葉県 126ヘクタール（同 95.5%）
- ・岩手県 101ヘクタール（同 94.4%）

となっている。

作付面積の推移



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

平成30年の出荷量は、1万2500トン（前年比90.6%）と、前年に比べてかなり減少した。

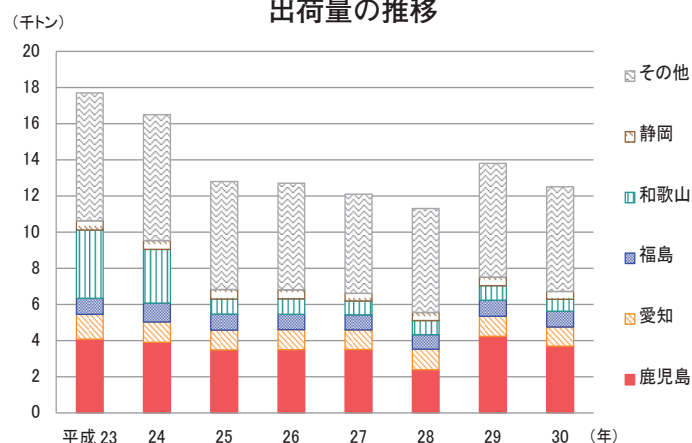
上位5県では、

- ・鹿児島県 3,690トン（同 87.0%）
- ・愛知県 1,060トン（同 95.5%）
- ・福島県 871トン（同 99.1%）
- ・和歌山県 655トン（同 80.6%）
- ・静岡県 445トン（同 95.7%）

となっている。

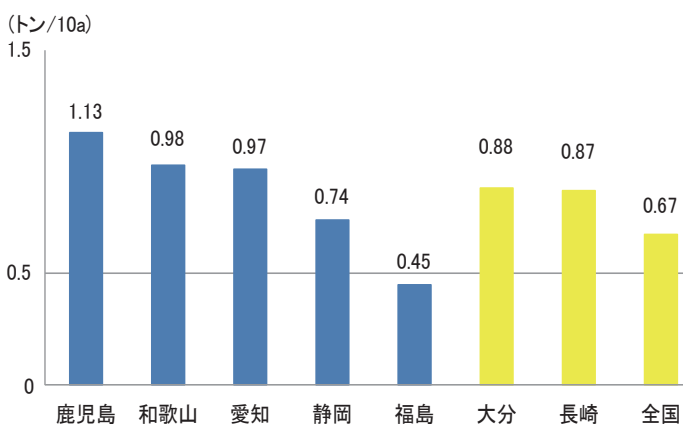
なお、25年から作付面積および出荷量が減少しているのは、さやえんどうに含まれていたグリーンピースが25年から分離されたことによる。

出荷量の推移



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

平成30年産の主産地の単収



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

注：黄色は、出荷量上位5県以外で単収が多い県および全国平均。

作付けされている主な品種等

美しい花が特徴のえんどうだが、さや用種の花には白色（美笹、電光30日など）と赤紫色（姫みどり、ゆうさやなど）の2種あるのが特徴である。さつま白花は、その名の通り鹿児島県で開発された品種である。

また、さやえんどうには、長さが10センチ以上になる大莢と短い絹さやがあるが大莢は少なくなっており、収穫作業の負担が少ないこともあってスナック753などのスナック種が増えている。

都道府県名

主な品種

鹿児島県 さつま白花、美笹、ニムラサラダスナップエンドウ

福島県 ゆうさや、姫みどり、美笹、スナック753、ホルンスナップエンドウ

愛知県 紅姫、ニムラサラダスナップエンドウ

千葉県 姫みどり、美笹、ニムラサラダスナップエンドウ

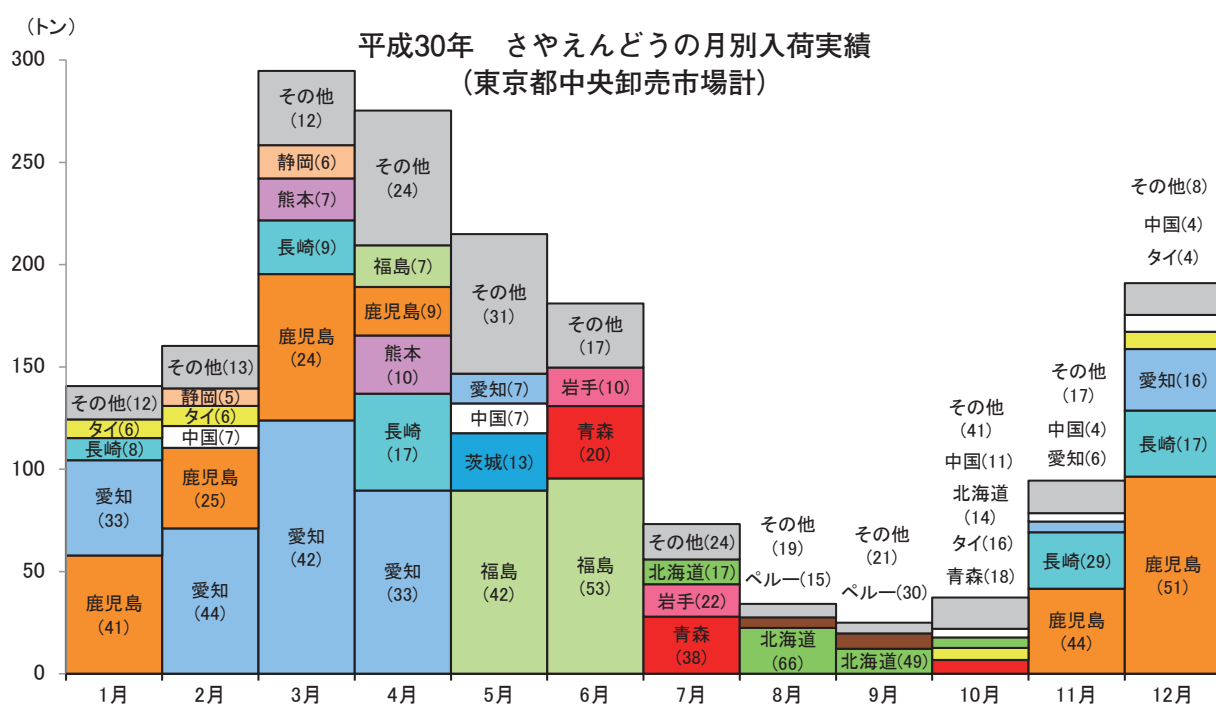
岩手県 松島三十日、電光30日、あずみ野30日、ニムラサラダスナップエンドウ

資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成

東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（平成30年）を見ると、11～2月までは温暖な鹿児島産、長崎産を中心に愛知産、タイ産や中国産といった輸入ものも見られる。ピークの3月および4月には、愛知産のほか九州の

産地、静岡産が入荷し、5月以降10月にかけては福島産、茨城産、青森産、岩手産、北海道産などに産地が移行し、数量は減少しながら推移する。8～10月にかけてはペルー産やタイ産など海外産の入荷がある。

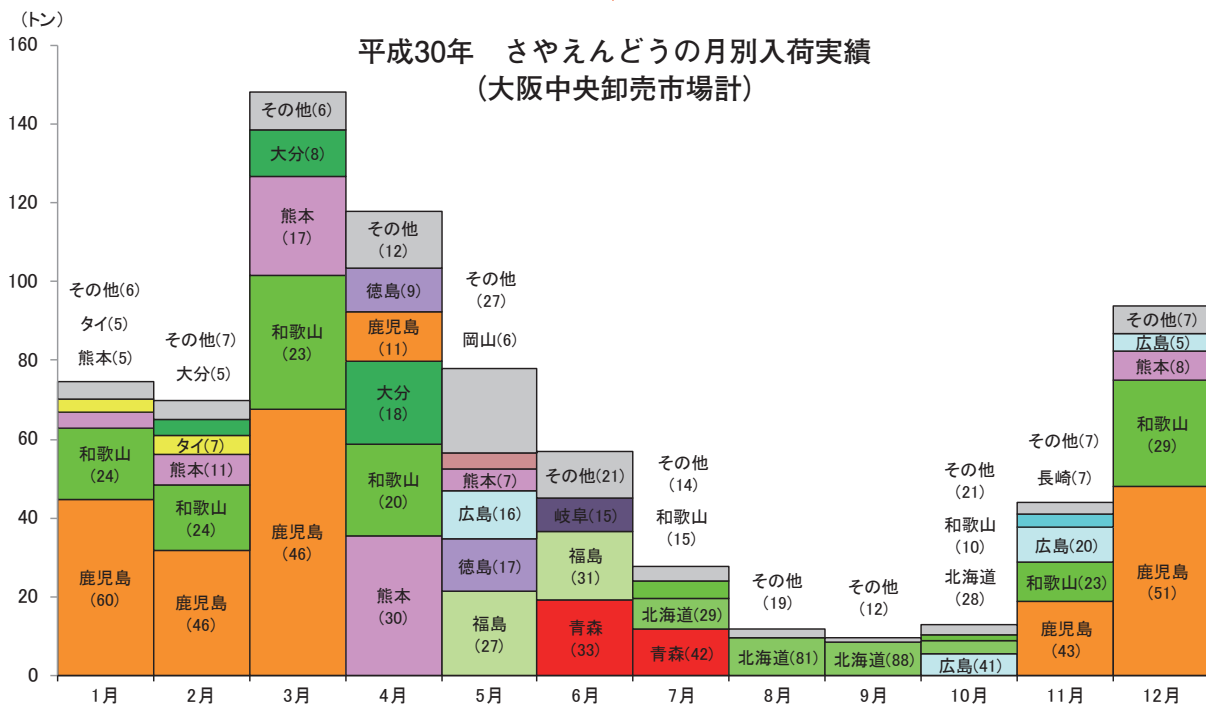


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成30年東京都中央卸売市場年報）

注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（平成30年）を見ると、11～2月までは温暖な鹿児島産、和歌山産を中心にわずかにタイ産など海外産も入荷する。ピークの3月および4月には、九州の産地のほか和歌山産、徳

島産が入荷し、5月以降、9月にかけては福島産、青森産、岩手産などに産地が移行し、数量は減少する。夏場の7～9月にかけては北海道産、10月には広島産もみられる。

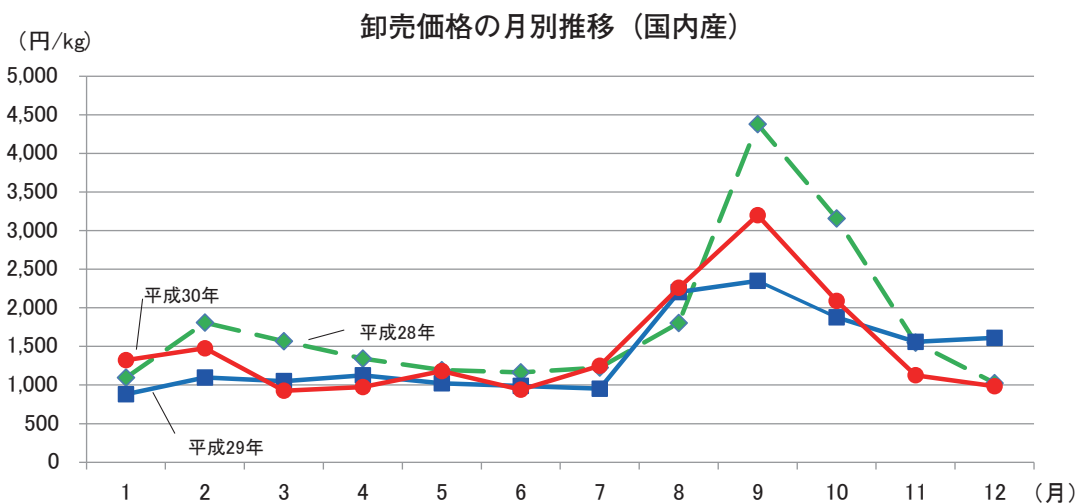


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成30年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）
注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

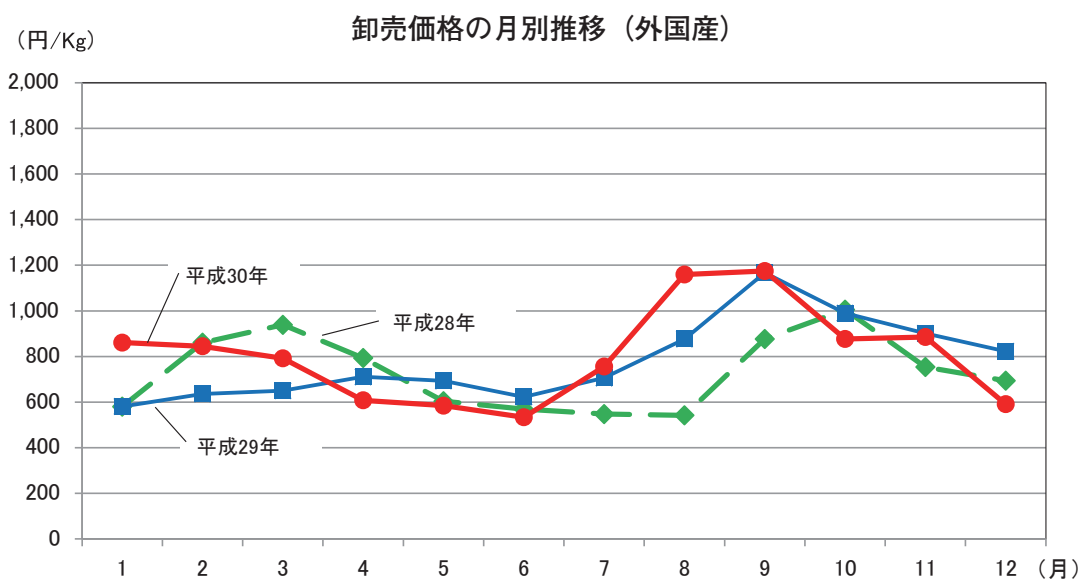
東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場における平成30年の国内産の卸売価格は、入荷量が少ない8～9月ごろに高くなり、11月以降は1キログラム当たり1000～1500円の間で推移して

いる。一方、外国産については、通年、1キログラム当たり500～1000円の間で推移する。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

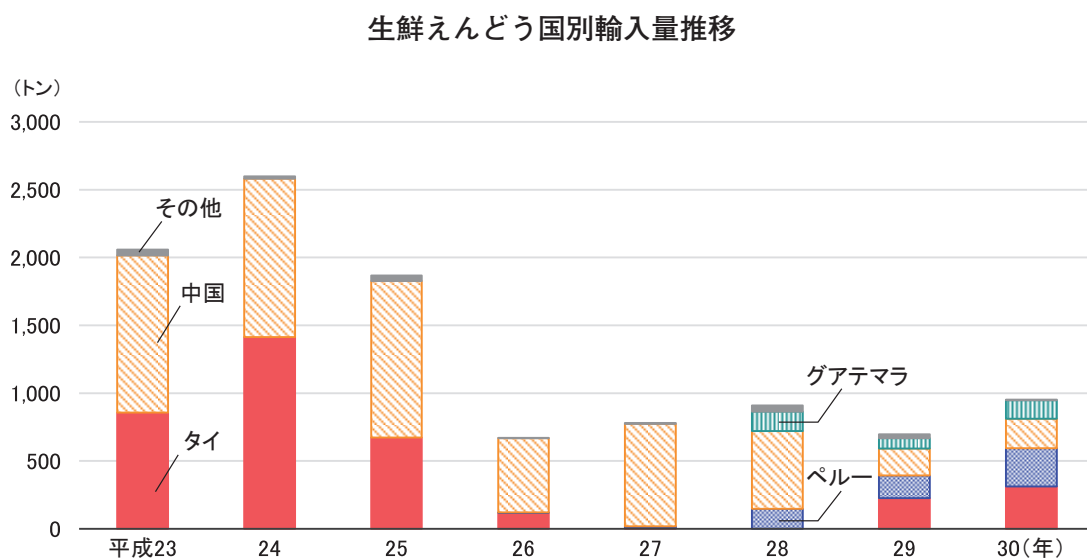


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

輸入量の動向

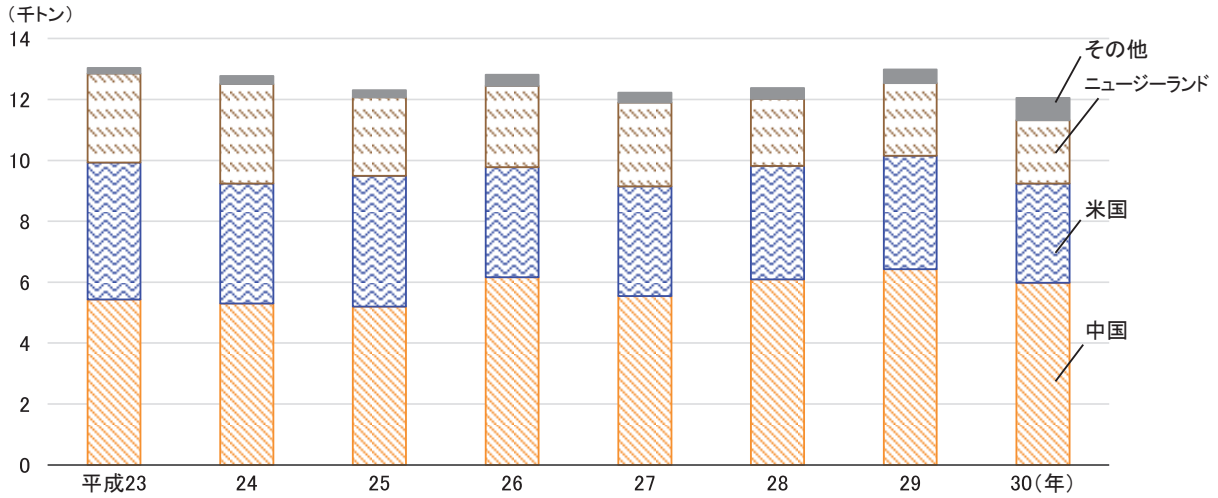
えんどうの輸入量は、生鮮では平成24年をピークにタイ産や中国産が減少しており、近年はペルーやグアテマラといった中南米産が増えている。冷凍については、1万

2000トン前後で安定して推移しており、中国、米国、ニュージーランドの3カ国で大部分を占める。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

冷凍えんどう国別輸入量推移



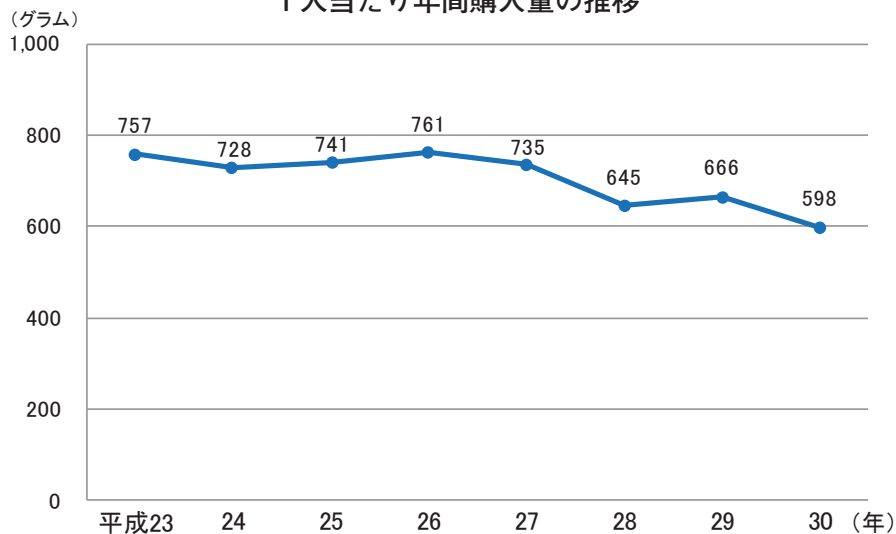
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

さやえんどうの消費動向

さやえんどうは、菜の花と並び春の行事には欠かせない野菜である。1人当たり年間購入数量は減少傾向で推移しており、平成30年には598グラムとなったが、近年はボリューム感のあるスナップも人気である。β-カロテンが多い緑黄色野菜に分類され、葉酸、ビタミンKも含まれる。また、

100グラム当たりのビタミンC含有量はいちごに匹敵する。さやえんどうの鮮やかな緑色は、料理の彩りとして欠かせない存在であり、さらにβ-カロテンは油分と一緒に採ると吸収されやすくなるので味噌汁やサラダのトッピング、さらに肉料理の添え物として幅広く活用できる。

1人当たり年間購入量の推移



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「家計調査年報」）